

## 大會宣言草案

昨年春の金融恐慌以来、資本の攻勢は一層酷烈に我等労働階級の頭上に加へられつつある。失業と操業短縮と賃銀の低下に依る生活苦は、我國労働階級の負へる現下の苦惱である。

我が日本紡織労働組合は、我國九十五萬の織維工業労働者の中堅として、過去数年に亘つて悪戦苦闘を續け來つた。而して今日、資本の攻勢と反動的潮流の爲めに我國労働運動の最も多難なる秋に當つて、我等は深く自からの陣營を固め、健全なる運動方針を提さげて此の難局を突破するの決意と準備の必要を痛感するものがある。思ふに過去の日本の労働運動は、徒らに理想のみを歌つて現実を輕視するの傾向を有して居る。我等は今日、日本紡織労働組合の昭和三年度大會を迎ふるに際し、現在の我國労働運動の戦線に最も適切なる方策を決定すべきものなることを信じて居る。

第一に我國織維工業労働者九十五万中、組織を有する者は約二萬である。我等は先づ是等未組織大衆を我が組合の旗下に組織し、而して組合員の階級的教育訓練を積んで、組織的實力を築くことが急務である。殊に我國紡績資本家は、紡績聯合會なる強大なる組織を有して我等の陣營に對抗しつつある。是等資本家階級の勢力に對抗し、今日他の産業に比し著しく労働条件の劣悪なる織維労働者の生活の改善向上を計らんと欲すれば、我等は先づ我等の陣營の擴大と内容の充實を計らねばならぬ。

第二に我國の織維工業資本家は、最も組合運動に對し頑迷なる弾圧を